
魔法少女リリカルなのは 転生者による原作破壊の物語

のりにゃんこ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

魔法少女リリカルなのは

転生者による原作破壊の物語

【コード】

N7900Y

【作者名】

のりちゃんこ

【あらすじ】

ある日神様のミスで死んでしまった事もなく偶然転生させられる事になる少年少女たち。 彼等は少しでも良い未来を創ろうと奮闘する。

E P O O 　　プロローグ

俺は真つ暗闇の中で目が覚めた。

上も下も、前も後ろも、右も左も分からない、暖かく、心地の良い
“闇”

そういえば死んだんだっけ。

そんな事を考えていると、不意に声をかけられた。

「おめでと〜！君はこの度、見事転生者に選ばれました〜！」

は？なに？このコードギアスのロイドさんっぽい声でロイドさんっ
ぽい話し方するメガネは。

「なんで俺？っーか死んで漸く心地の良い場所に來れたのに。」

全くだ。末期の癌とか言われて一年苦しんだんだぜ？

っていうか、余命半年とか言われたっけ。今思うとすげえな。しか
し享年十九歳か。我ながらびっくりだ。

まあ今更どうでもいいが。

「ふむ。君の疑問も尤もだ。簡単に言うと、十九歳までに死んじや
ったで“魔法少女リリカルなのはシリーズ”について一定以上の知
識が執念を持った人間を選び出し、その中から気に入らない奴を候
補から外し、最終的に残った人間の内の一人が君だ。」

あ、真面目な口調になった。

「では特典を三つ与えるってことだから。ああ、ちなみに拒否権は無いから。」

えー無いの？。まあしょうがないか。

「じゃあ、“ジェイル・スカリエッティ”のフィッシュ数乗の頭脳をくれ。」

「はいっ。」

「いいの？流石に無理だと思ったのに！」

「まあそんならいなら。というか君、無理だと思ってるのに言うんだね。まあ、僕らそれ＋5位はあるから。まあ中には馬鹿もいるけど。」

そうなのか。意外にすごいなメガネ。

「あと二つだよ。」

急かすな。まじで。

「じゃあ、レアスキルメイカーがいい。」

「ああ、レアスキルが作れる奴だね。まあ、妥当かな。了解。」
あと一つか。そうだな。

「何でも覚えられて且つ効率が普通の百倍。できるか？」

「もちろんさ。まあ、そんな回りくどい能力を頼んできたのは君が始めてだが」

そうなの。割と便利なのに。

あ、そういえば。

「俺が入る体つてのは産まれてくる赤ん坊なのか？というか新しく作られるのか？」

これが気になってたんだよな。二次創作じゃあよくあるけどどうなつてんのかわからなかったし。

「特典に酷似した能力を一つ以上持った人間に入れるよ。まあそれで実現できない奴は新しく作るが。あと足りない特典は与えるから」

成る程。ん？

「実現できない奴つてのは？」
メガネは答えた。

「二次創作にたまにいるだろ？銀髪オッドアイとかさ。あと原作キヤラの親族とか。流石にそういうものは落ちて（存在して）無いから。」

ああなる。

「神様つて大変なんだね。」

一応労っておく

「ありがとう。ぬぎらいの言葉をかけてくれたのは君だけだよ。」

ああ、かわいいそうに。

「よし、じゃあ記念に超ハイスペックな体にいれてあげるよ。」

はい？

「じゃあいくよ！キエエエエエエエエ！」

「掛け声かっこ悪！」

馬鹿な事言ってたら下に落ちていく感覚がして、

俺は意識を失った。

EP00 〽プロローグ〽 (後書き)

グダグダな気がします。が、作者は初投稿なので大目に見てください。

EP01 古代ベルカの王的なものになりました

なんか暖かい液体の中にいる感覚がする。

ああ、転生させられたんだっけ。

あれ？

SIDE 科学者

漸く長年の研究の成果が出る。

古代ベルカに存在したという二人の王

聖王と霸王

最近の研究で明らかになった“騎士王”と呼ばれる、彼等と同時期に生き、共に戦ったとされる第三の王。

その三人の遺伝子情報をもとに人造魔導師を創る計画。

プロジェクト EMPEROR

今日はその完成体を稼働させる日だ。

おや？もう時間か。さて、完成度はどの程度か記録せねば。

S I D E O U T

S I D E 名前はまだ無い転生者

ごぼっ という音と共に周りの水がぬけていく。

まだ目はあかない。

「おお！これが完成体か！」

ん？なんか色々声が聞こえるな。
ちよっと耳を傾けてみるか。

「はい。まだ溶液を抜いたばかりなので目はあきませんが。」

若そうな声だな。

「で、身体スペックの方はどうなっている？」

じじいみたいな声だ。

「はい。魔力値の方はAAA+S-って所ですね。あと筋力などですが、今の状態でストライクアーツの達人級かその少し下くらいでしょうか。知能に関してはまだ分かりません。」

「ふむ、そうか。色々な薬品を投与して耐性を調べて見ようと思う

から第二研究室まで運んでくれ。」

ちよつと待てじじい！俺を殺す気か！

「な……………リンカーコアが暴走状態に？いや、違う！これは……………」

「な……………何が起こつておる？完成体の体が赤く光出したぞ？」

力の使い方が頭の中に直接入ってくる。

魔力の扱い方。

現在の体の状態。

広域殲滅魔法の術式。

俺はゆつくり目を開けた。

そして

「広域殲滅魔法発動。 “ワルプルギス” 並行詠唱 “デアボリツク・エミツション” 広域殲滅誘発魔法 “フェアツヴァイフルング” 発動」

両手に白い光と黒き闇が顕現する。

そして二つの魔力が干渉しあい、

灰色の“絶望”が全てを染めた。

「死ぬかと思った。つっ—かなんで生きてんの俺？」

「ああ、それは君に送ったデバイスが非殺傷設定にしたからさ。」

メガネの声がした。神様だもんね！驚いたら負けだよね！

「いや、でも俺デバイス持ってないんだけど？」

「君は面白い事を言うね。その手に持っている魔導書型デバイスの事だよ。ああ、名前は覇天の魔導書”アーサー”だ。大事に使ってくれたまえ。あと研究者達は生きてるから殺人はしてないよ。」

あ、そうなの。よかった人殺してなくて。

まあ抗議はするが。

「何で人造魔導師に入れられたのか納得できる説明を求む。」

「ハイスペックな体で検索して一番性能が良くて、一番容姿が普通な体を選んだらそうなった。」

「一応聞いておこう。他はどんな容姿だったの？」

「肌の色が青とか、トカゲ男みたいなばかりだったが」

神様ありがとう！人間（スペックは化け物レベル）になれて良かったよ！トカゲとか苦手だったから！

所でココ、どこ？

EP01 〱 古代ベルカの王的なものになりました〱 (後書き)

なんか本当にグダグダですごめんなさい。

感想等寄せて頂けると嬉しいです。

それでは次回 原作っていつだっけ？

をお楽しみに！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7900y/>

魔法少女リリカルなのは 転生者による原作破壊の物語

2011年11月23日23時47分発行